

2025年9月30日 全7頁

Indicators Update

2025年8月鉱工業生産

電気・情報通信機械工業などが減産し生産指数は2カ月連続で低下

経済調査部

エコノミスト

中村 華奈子

[要約]

- 2025年8月の生産指数は前月比▲1.2%と2カ月連続で低下し、コンセンサスを下回った。内訳を見ると、電気・情報通信機械工業や金属製品工業などの減産が押し下げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は、軟調な推移が続くだろう。米トランプ政権による高関税政策（トランプ関税）がもたらす悪影響には引き続き注意が必要だ。日米関税交渉は合意に達し、対日相互関税率は15%に設定された。事前に通知されていた25%の相互関税率と比べると、日本経済への悪影響は一定程度緩和された形となる。だが、海外経済の大幅な落ち込みや、米国における販売価格引き上げ、現地生産の増加など、リスク要因は残っている。トランプ関税を巡る国内外の動向や経済活動への影響を引き続き注視する必要があるだろう。
- 2025年10月7日公表予定の8月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+1.5ptの107.6、一致CIが同▲0.8ptの113.3と予想する。この予測値に基づくと、8月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2025年									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
鉱工業生産	▲1.1	+2.3	+0.2	▲1.1	▲0.1	+2.1	▲1.2	▲1.2		
コンセンサス								▲0.9		
DIR予想								▲0.7		
生産予測調査									+4.1	+1.2
補正值(最頻値)									+2.3	
出荷	▲1.0	+3.0	▲1.8	+0.1	+2.4	▲0.8	▲2.1	+0.5		
在庫	+1.5	▲1.7	+1.2	▲0.8	▲1.8	▲0.3	+0.9	▲1.0		
在庫率	▲0.4	▲3.5	+4.4	▲0.6	▲1.1	+0.9	+0.1	+2.5		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】電気・情報通信機械工業や金属製品工業などが減産し、2カ月連続で低下

2025年8月の生産指数は前月比▲1.2%と2カ月連続で低下し、コンセンサス（同▲0.9%、Bloomberg 調査）を下回った。内訳を見ると、電気・情報通信機械工業や金属製品工業などの減産が押し下げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、15業種中12業種が前月から低下した。電気・情報通信機械工業（前月比▲5.7%）は3カ月ぶりに低下した。品目別に見ると、ノート型パソコン（同▲30.1%）や外部記憶装置（同▲35.1%）などが減産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」によると、電気・情報通信機械工業は輸出向け（同▲6.7%）と国内向け（同▲12.1%）のいずれも低下した。

金属製品工業（前月比▲7.8%）は2カ月連続で低下し、品目別では、アルミニウム製建具（同▲13.4%）や鉄骨・軽量鉄骨（同▲12.7%）などが減産となった。

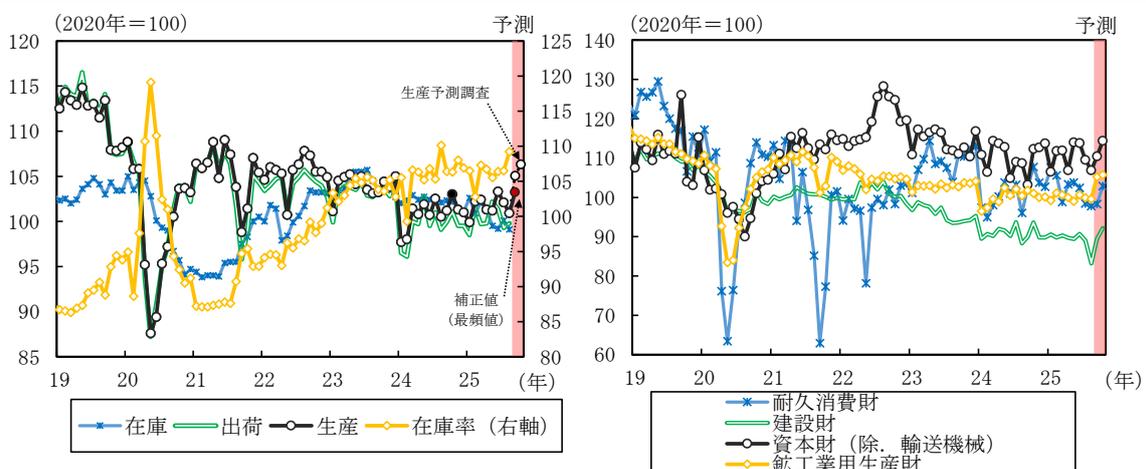
他方、輸送機械工業（除.自動車工業）（前月比+20.0%）や自動車工業（同+2.5%）などは前月から上昇した。輸送機械工業（除.自動車工業）では航空機用発動機部品（同+46.4%）が、自動車工業では普通乗用車（同+6.5%）や軽乗用車（同+18.5%）などが増産となった。

財別に見ると、非耐久消費財（前月比▲2.4%）、建設財（同▲6.5%）、資本財（除.輸送機械）（同▲2.4%）、生産財（同▲0.4%）、耐久消費財（同▲0.6%）のいずれも低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は3カ月ぶりに上昇

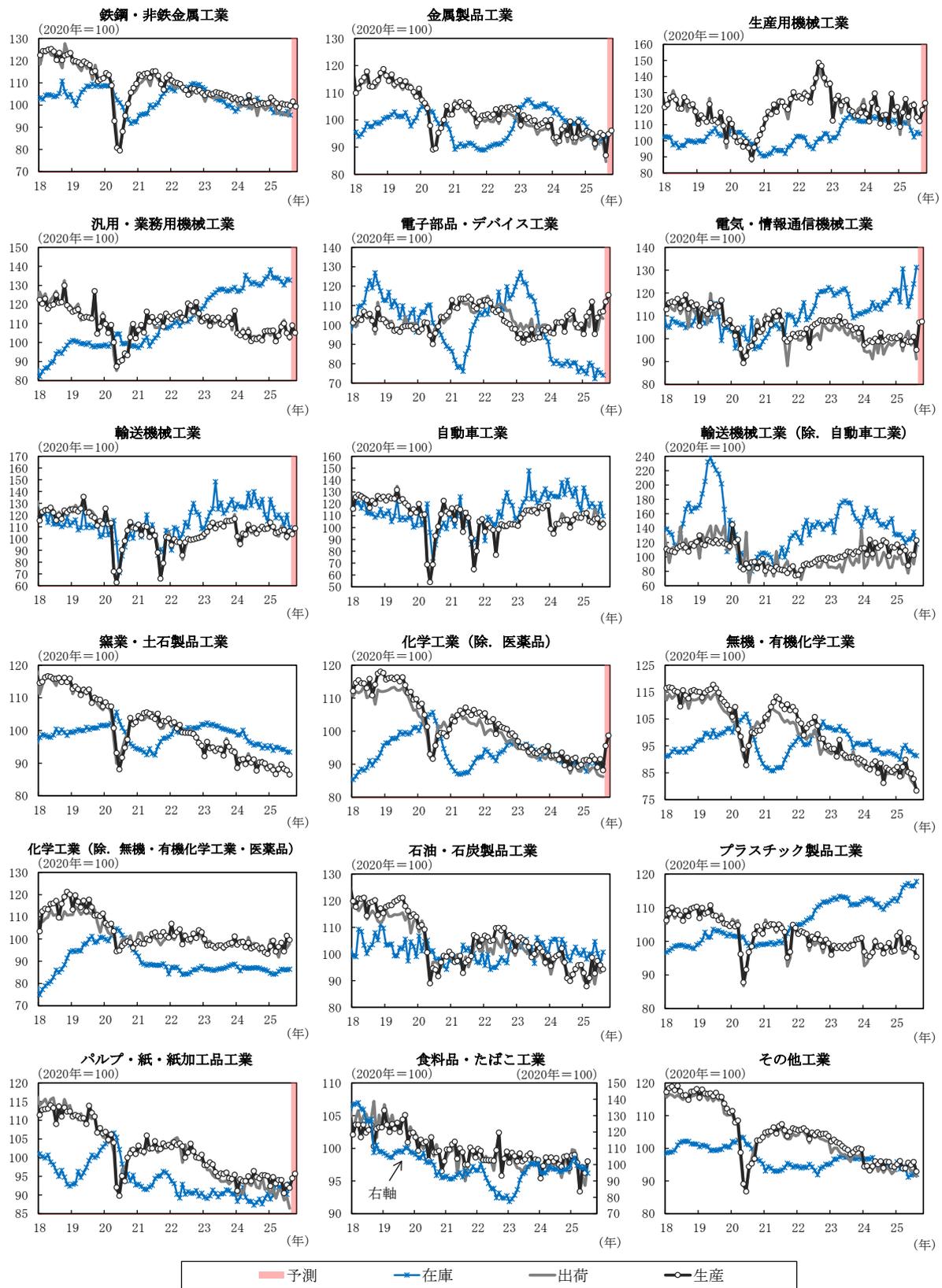
2025年8月の出荷指数は前月比+0.5%と、3カ月ぶりに上昇した。業種別では、自動車工業（同+4.5%）や輸送機械工業（除.自動車工業）（同+26.8%）など15業種中6業種が上昇した。財別に見ると、生産財、耐久消費財が前月から上昇し、非耐久消費財、建設財、資本財（除.輸送機械）が前月から低下した。在庫指数は同▲1.0%、在庫率指数は同+2.5%だった。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業 (除. 医薬品) の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は軟調に推移、トランプ関税がもたらす悪影響には引き続き注意が必要

先行きの生産指数は軟調な推移が続くだろう。米トランプ政権による高関税政策（トランプ関税）がもたらす悪影響には引き続き注意が必要だ。

日米関税交渉は合意に達し、対日相互関税率は15%に設定された。事前に通知されていた25%の相互関税率と比べると、日本経済への悪影響は一定程度緩和された形となる。だが、米国と他国との合意内容次第では、外需の大幅な落ち込みを受けて日本の輸出が減少し、生産指数が押し下げられるリスクがある。

また、企業は今後、米国市場における販売価格の引き上げやサプライチェーンの見直しに動く可能性がある。販売価格の上昇は、日本製品の価格競争力を低下させ、輸出の逆風となる。また、関税を回避するため、米国での現地生産や現地調達が増加すれば、日本からの輸出は直接的に減少する。実際、自動車業界では、一部メーカーがトランプ関税によるコスト増を懸念し、日本から米国への生産移管をすでに決定している¹。こうした動きが他メーカーにも広がれば²、国内生産に対する悪影響が拡大する可能性がある。

加えて、日本政府は日系自動車メーカーに対して、米国生産車の逆輸入を促すことを検討している。仮に、自動車の輸入台数が大幅に増加すれば、国内生産の押し下げ要因となることが懸念される。トランプ関税を巡る国内外の動向や経済活動への影響には、引き続き注意が必要だ。

製造工業生産予測調査を見ると、2025年9月の生産指数は前月比+4.1%と見込まれている。業種別では11業種中10業種が上昇する見通しだ。電気・情報通信機械工業（同+12.6%）では、その他の電気機械などの増産が見込まれるほか、化学工業（同+8.4%）や生産用機械工業（同+6.2%）などの上昇が見込まれる。ただし、実際の生産指数は予測値よりも下振れする可能性がある。生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）³で見ると、9月は同+2.3%と見込まれている。前月比で+4.1%という増産計画は、やや割り引いて見る必要があるだろう。

2025年10月の生産指数は前月比+1.2%と見込まれている。業種別では11業種中8業種が上昇する見通しだ。9月生産計画では減産が見込まれる輸送機械工業（同+4.7%）では乗用車などの増産が見込まれているほか、生産用機械工業（同+3.6%）や化学工業（同+3.3%）などの上昇が見込まれる。

¹ NHK「[ホンダと日産 現地向け生産の一部 日本からアメリカへ移管](#)」（2025年4月16日）

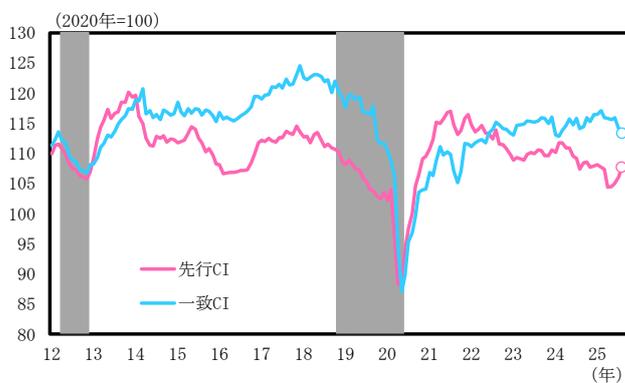
² 日本経済新聞「[いすゞ、米国向け小型トラックを現地生産へ 関税影響緩和見込む](#)」（2025年7月28日）

³ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

【25年8月景気動向指数】先行CIは上昇を、一致CIは低下を見込む

鉱工業指数の結果を受けて、2025年10月7日に公表予定の8月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+1.5ptの107.6、一致CIが同▲0.8ptの113.3と予想する（**図表4**）。先行CIでは構成指標のうち、消費者態度指数やマネースtock（M2）（前年同月比）、東証株価指数などが前月から改善した。他方、一致CIでは構成指標のうち、輸出数量指数や生産指数（鉱工業）、商業販売額（小売業）（前年同月比）などが前月から悪化した。この予測値に基づく、8月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移

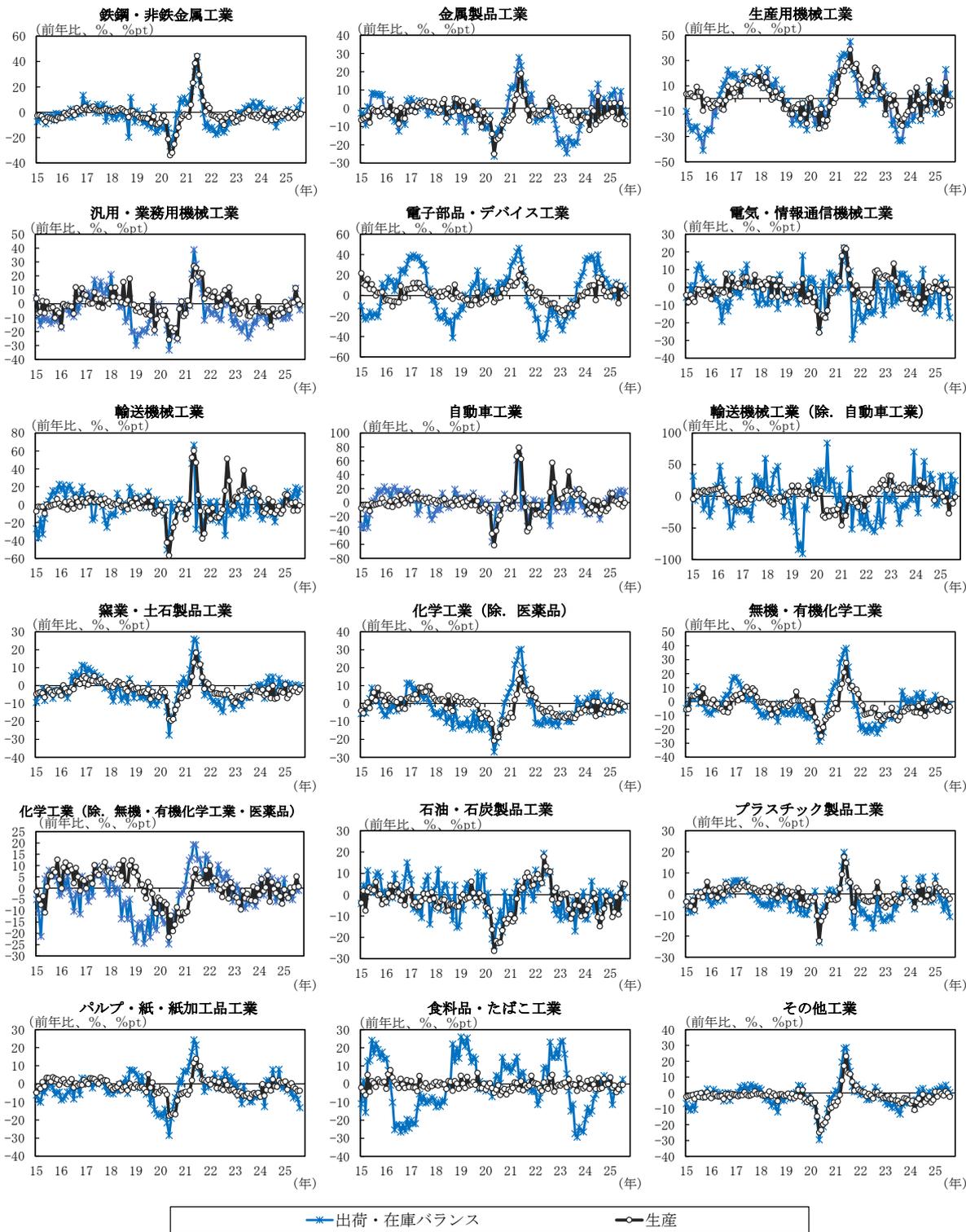


(注) 左図の直近は大和総研による予測値。シャドウは景気後退期。
2025年8月は大和総研予想。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

基調判断		基調判断	
2024年1月	足踏み	2025年1月	下げ止まり
2024年2月	下方への局面変化	2025年2月	下げ止まり
2024年3月	下方への局面変化	2025年3月	下げ止まり
2024年4月	下方への局面変化	2025年4月	下げ止まり
2024年5月	下げ止まり	2025年5月	下げ止まり
2024年6月	下げ止まり	2025年6月	下げ止まり
2024年7月	下げ止まり	2025年7月	下げ止まり
2024年8月	下げ止まり	2025年8月	下げ止まり
2024年9月	下げ止まり		
2024年10月	下げ止まり		
2024年11月	下げ止まり		
2024年12月	下げ止まり		

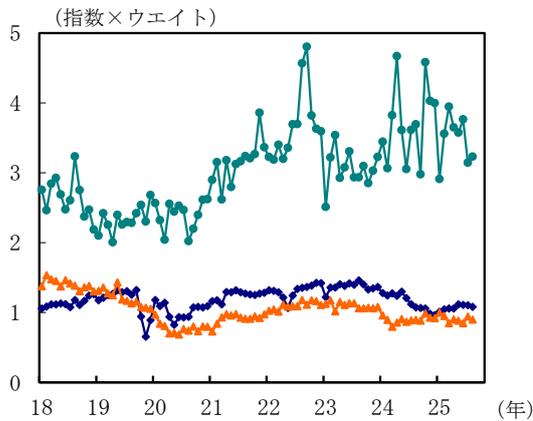
業種別 出荷・在庫バランスと生産



(注1) 出荷・在庫バランス=出荷前年比-在庫前年比。
 (注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成

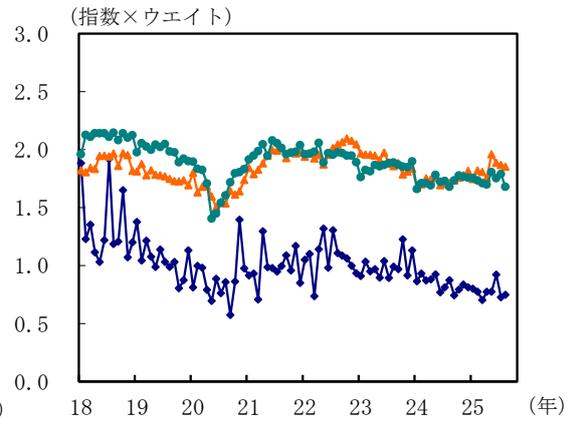
主要産業の生産動向(季節調整値)

生産用機械



◆ 建設・鉱山機械
▲ 金属加工機械
● 半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置

汎用・業務用機械



◆ ボイラ・原動機
▲ ポンプ・圧縮機器
● 汎用機械器具部品

電子部品・デバイス



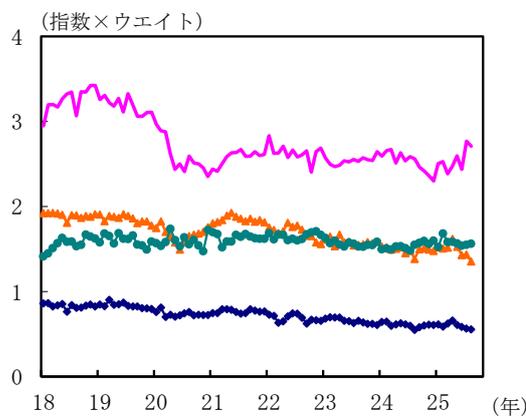
◆ 集積回路 (IC) ▲ 電子デバイス
● 電子部品 ■ 電子回路

輸送機械



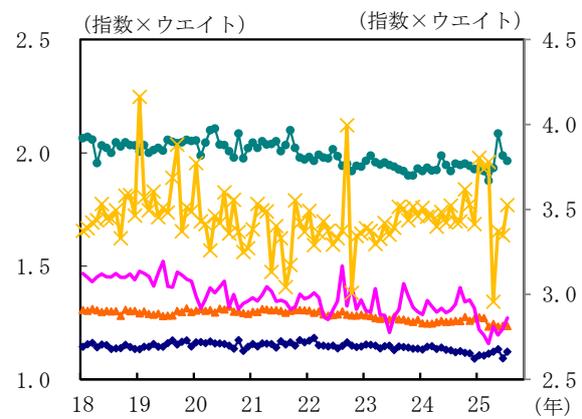
▲ トラック ■ 船舶・同機関
◆ 乗用車 (右軸)
● 車体・自動車部品 (右軸)

化学



◆ 石油化学系基礎製品
▲ プラスチック
● 洗剤・界面活性剤
■ 化粧品

食料品・たばこ工業



◆ 肉加工品
▲ 乳製品
● パン・菓子
■ 清涼飲料
× 酒類 (右軸)

(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成